

特定臨床指標 2 【検査部】

緊急検体検査結果報告時間 目標達成率

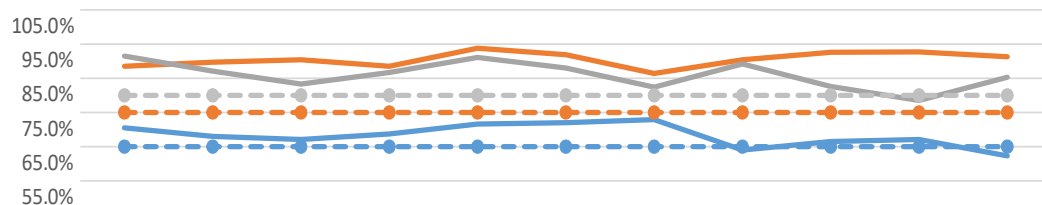


血液などの検体検査の結果が報告されるまでの時間を短縮することは、患者さんの診断や治療に直結する重要な診療支援の一つとなっております。特に、救急外来や入院患者さんの急変に対しては、迅速に検査を実施して結果を報告する必要があります。このような検査は緊急検査とよばれ、当検査部では夜間・休日問わず24時間体制で検査を実施しています。検査結果報告時間の短縮に向けて各検査に目標値を設定して、検査結果の報告に遅れが無いかな全ての検査の報告時間をモニタリングしています。

夜間・休日における緊急検査報告時間の達成率

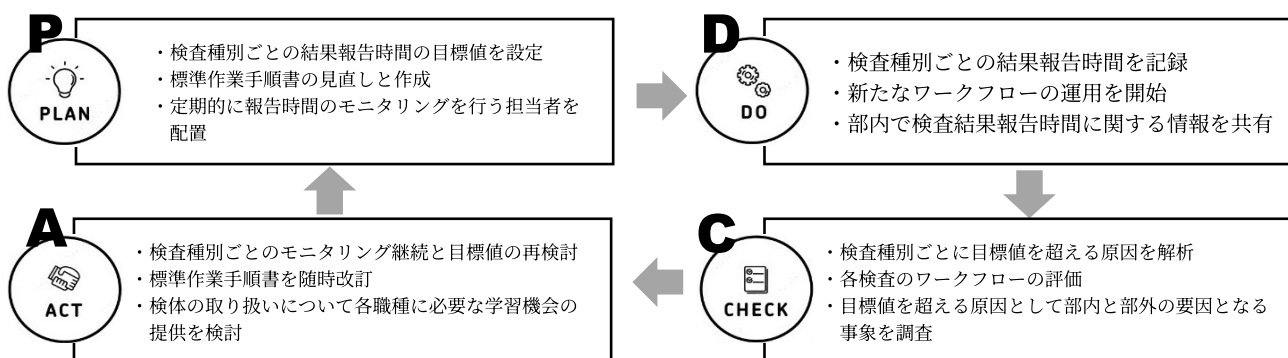
定義

分子：採血管受付から結果報告までの時間が目標値を達成した検体数
分母：緊急検査として提出された各検査の検体数



	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生化学検査	75.5%	73.0%	72.1%	73.7%	76.6%	77.0%	77.9%	69.0%	71.5%	72.1%	67.3%
血算検査	93.5%	94.7%	95.4%	93.5%	98.8%	96.9%	91.4%	95.4%	97.6%	97.7%	96.3%
凝固検査	96.5%	92.1%	88.3%	91.7%	96.1%	93.0%	87.4%	94.2%	87.6%	83.5%	90.3%
他施設：生化学検査	70%	70%	70%	70%	70%	70%	70%	70%	70%	70%	70%
他施設：血算検査	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%	80%
他施設：凝固検査	85%	85%	85%	85%	85%	85%	85%	85%	85%	85%	85%

※目標値：生化学検査（30分以内）血算検査（15分以内）凝固検査（30分以内）



■2025年度 実施内容と評価

実施内容 緊急検体検査（生化学、血算、凝固検査）における報告時間の遅延要因を調査し、検体の品質確保および再採血防止を目的に以下の施策を実施した。教育啓発活動の実施（2025年8月）：検査部主催のE-learning「検査全般に関わるQ&A」を実施。看護師の受講率は84.2%に達した。事例共有と注意喚起（2025年12月）：「輸液混入」や「シリンジ採血時の混和不足」に起因する再採血事例を具体的にまとめ、院内メールにて周知・啓発を行った。

評価

- ・全体評価：全項目において前年度を上回る達成率を記録した。他施設データと比較しても良好な水準を維持している。
- ・個別評価：特に生化学検査において、数値としては微増に留まるものの着実な改善が見られた。これは、E-learningによる知識の底上げと、具体的な不適切事例（輸液混入等）の周知が、現場の採血手技に対する意識向上に寄与した結果と考えられる。